

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	交通安全施設等整備事業（好摩駅周辺整備）			事業コード	2440
所属コード	083000	課等名	建設部 道路建設課	係名	道路第二係
課長名	小 西 一 士	担当者名	松 本 啓	内線番号	2733
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	安全な暮らし	コード	2
	施策	市民生活を守る安全対策の充実	コード	3
	基本事業	交通安全の推進	コード	1
予算費目名	一般会計 8 款 2 項 6 目 社会資本整備総合交付金事業（001-05）			
特記事項	総合計画主要事業，新市建設計画事業			
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 単年度繰越 <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 17 年度	
根拠法令等	道路法			

(2) 事務事業の概要

東西自由通路 L=88m，東西駅前広場 2 箇所（A=1,850 m²），歩道整備 L=800m

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

駅舎のある西側地区は，古くから商店街が形成されているとともに，学校等の公共施設も設置されており，市街地が進展され好摩地区の中核を担っている。一方，東側地区は民間の宅地開発が促進され，新たな市街地が形成されている。

このような状況のなか，東西市街地を往来するには遠回りとなる県道こ線橋や踏切を活用しなければならず，好摩地区の住民から東西自由通路整備をはじめとした駅周辺施設の整備要望書が出されており，盛岡市と玉山村の合併に際して好摩地区のメイン事業として新市建設計画に盛り込まれた事業である。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

自動車保有台数が年々増加傾向のなか，CO₂削減として公共交通機関の利用が大きく見直され，駅へのアクセス機能の向上が大きく求められている。また，CO₂削減とともに少子高齢化時代を向え，ユニバーサルデザインの公共施設も社会通念上の常識となっている。

好摩駅周辺の道路施設はアクセス機能も不十分であり，ユニバーサルデザインにも対応できていないため，早急な対応が必要である。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象（誰が，何が対象か）

自由通路，駅前広場等

道路利用者（歩行者，沿線住民，駅利用者）

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 自由通路計画延長	m	88	88	88	88	88
B 東西駅前広場計画面積	m ²	1850	1850	1850	1850	1850
C 歩道整備計画延長	m	800	800	800	800	800

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

新駅舎，自由通路上部工，仮駅舎撤去，東西駅前広場

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 自由通路整備延長	m	14	32	23	23	
B 東西駅前広場整備面積	m ²	0	1100	750	750	
C 歩道整備延長	m	0	0	0	0	

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

鉄道で分断されている好摩の東西市街地を連携し，新たなコミュニティの創出や利便性の向上を図る。

また，鉄道や車両の交差を避けることで交通安全の向上も併せて図る。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 自由通路整備延長累計	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	m	33	65	88	88	88
B 東西駅前広場整備面積累計	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	m ²	0	1100	1850	1850	1850
C 歩道整備延長	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	m	0	0	0	0	800

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	122,650	335,150	177,250	96,218
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	99,800	274,000	145,300	88,600
	④一般財源	千円	550	214	800	651
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	223,000	609,364	323,350	185,469
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	720	720	720	720
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	2,880	2,880	2,880	2,880
計	トータルコスト A+B	千円	225,880	612,244	326,230	188,349
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：駅周辺施設を整備することにより、車両と輻輳する歩行者の交通安全の確保並びに駅へのアクセス機能が強化され利便性の向上を図ることができる。

② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：道路施設は、最も公共性の高い施設であり、防災空間も含めた住民生活の根幹的な役割を担っている。

③ 対象の妥当性

現状で妥当である

理由：道路施設は、経済活動や生活基盤の根幹をなす最も公共性の高い施設であり、住民の利便性、安全性を確保しなければならない。

④ 廃止・休止の影響

影響がある

内容：安全で円滑な交通が確保されずに道路利用者は常に危険にさらされる。また、東西市街地の往来に遠回りとなる県道こ線橋や踏切を活用するため利便性の向上が図られない。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上余地がない

理由：歩道整備により、利用者の安全及び利便性が確保されることから、これ以上の向上の余地はない。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

公平・公正である

理由：道路施設は、不特定多数の車や人が利用する公共施設であり、受益者負担を求められ

ない。

(4) 効率性評価

削減できない

理由：事業費については、施工時点で施工方法の経済比較及び必要とする幅員等の検討をしており、削減余地はない。また、公共事業の品質確保がこれまで以上に求められることから、人件費は削減することはできない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

特になし

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

特になし

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

全体総括としては、好摩駅周辺の交通安全施設として地域住民はもとより観光客のためにも必要性が高く早期の完成が望まれているなか、H23 までの進捗率は 96.5%であり概ね順調に事業推移しているものと思う。

今後の改革改善については、ユニバーサルデザインに配慮しながら、細部にまで注意を払い、利便性の高い施設を完成させること。